

第3回 片瀬山市民の家再整備調整会議 議事要旨

日時：2023年（令和5年）1月18日（水）15時30分～17時00分

場所：片瀬市民センター 第1談話室

出席者：【検討委員】渋谷会長、松本副会長、甲斐氏、和田氏、若月氏、畠山氏、林氏、北川氏、荻野氏、坂間氏、井口氏

【事務局】（市民自治推進課）森主幹、野田補佐、

（片瀬市民センター）横田センター長、森井主幹

欠席者：【検討委員】正田氏 【事務局】日原参事

資料：【資料1】第2回片瀬山市民の家再整備調整会議 議事要旨

【資料2】提言書の要望事項に対する市の考え

議事

（1）前回の議事の確認

事務局から資料1について説明し、前回会議の要旨について資料記載のとおり確認された。

（2）新施設の諸室・設備について

事務局から資料2の「I コンセプト・機能」について記載のとおり説明された。

【質疑・意見】（「I コンセプト・機能」）

- ・2-(1)「防災安全部との調整」とあるが、具体的には。
⇒ 指定避難所などオフィシャルな位置づけをしようとするハードルが高い。
配慮が必要な方が一時的に入る一時避難所のような形を考えているが、結論には至っていない。次回には方向性が示せると思っている。
- ・市民の家を防災拠点とすることが良いのか考える必要がある。福祉避難施設としても食料の運搬などをあの坂を上ってやり取りするのは非常に難しい。
- ・機能を持たせることによって市民の家としての使い勝手が悪くなってはいけない。
- ・片瀬地区の住民は大地震発生時の避難先として片瀬山しかないので、片瀬山市民の家の再整備にあたっては避難施設を兼ねた施設を作りたいという強い要望があった。避難施設を中心に考えてほしい。
- ・避難施設として片瀬中学校があるが、毛布や乾パン、埋め込み式や組み立て式のトイレ程度しかなくあくまで学校で避難施設としての設備は整っていない。
- ・片瀬山に避難施設としての設備を備えたものを作りたいという要望。
- ・市の考えは避難施設として長期で避難する人のことが考えられていない。

- ・太陽光発電や自家発電は、市民センターに設置する考えとのことだが、津波が来たら片瀬市民センターはダメになってしまう。将来を見据えて片瀬山市民の家に作っておくべき。
- ・提言書の趣旨に沿った回答になっておらず不満。
- ・避難施設と兼ねる案は、片瀬の地区集会で挙がったもの。予算の都合はあるだろうが、もう少し提言書に沿った内容であれば皆さんが納得できるのではないか。
- ・指定避難所とする定義・条件などはあるか。

片瀬中学校と市民の家の建て替え用地では規模が大きく違うが、避難所を作ることができるのか。

⇒ 指定避難所するには、立地条件や建物の構造などの条件がある。

新施設を避難所としないわけではなく、片瀬中学校の避難施設の一部とする形で防災安全部と協議している。

避難施設にはベッドや食料、水などを備蓄しているほか間仕切りなどの備蓄を進めている。長期に渡る場合があるので、3日目以降に協定に基づいて様々な物資が供給される仕組み。

- ・今回の建て替え用地は250坪程度。避難施設として大規模なものは作れない。物理的に難しいのではないか。
- ・どんな規模の避難施設を作るかは、市が片瀬地区の災害対策としてどう考えるかということ。
- ・(3年前の)検討委員会の話し合いでは、今の施設の2.5倍の土地があるのであれば避難施設を兼ねた複合施設とすることができるのでは、という提言をした。提言の範囲の中で良いものを作って欲しいという思いに対して、三角とバツが多すぎる。
- ・片瀬山の住民だけのものではないという考えを忘れてほしくない。
- ・市の回答は2年前に提言したものより大分、項目が減っている。2階建てでガラス張りとするなど。
- ・できないものはしょうがないが、もう少しバツ、三角の部分を見直して、工夫して使いやすいものにしてほしい。
- ・平屋とする判断は拙速すぎる。鉄筋で2階建てにするだけで災害対策になるので、あとは避難施設としての使い方次第。
- ・指定避難所として兼用できる形で防災安全部と調整を詰めてほしい。

⇒ 避難所として使えない施設を作ろうとは思っていない。

単独で指定避難所にしようとする、市職員の配置など課題がある。中学校の一部、指定避難所の一部とする方向で調整を進めている。そこにどれだけの設備を付けるかは、ランニングコストなどから資料に記載のとおり提案をさせていただ

いた。三角とバツが多い点については、これで決定ではないので、ご意見をいただいた上で再度、検討する。(市)

- ・片瀬中学校の補完では困る。
- ・避難所として生活する水準までのものを備えるべきか。そのために部屋を細かく仕切ったりすると市民の家として使いにくいものになる恐れがある。
- ・被害状況によっては長期滞在が必要になる。長期でも何家族か生活できるようにすべき。
- ・長期滞在が必要な状況になれば、多くの人の受け入れが必要になる。市民の家の規模では現実的に対応は難しいのではないか。
- ・限られた規模の中でいかに皆が災害時に使える施設をどうしたら作れるかをこの会議でみんなで話し合うべき。
- ・市が出した考えについて、この部分はOKにして欲しいとか、こういう風にして欲しいということ具体的に話し合っ、最後に基本構想に組み入れてもらうことがこの会議でやるべきこと。我々の考えを市に伝えて、持ち帰って考えてもらうことが必要。
- ・理想ばかりでなく、具体的なことを決めていかなければいけない。
- ・片瀬地区の方の不安を取り除くことも十分に配慮が必要。市民の家にプラスした機能の検討を前向きに進めてほしい。
- ・黒三角の部分を白参画にしたい。防災安全部との調整結果が次回出てくるので、それを基に検討すればよいのではないか。
- ・(市) 福祉避難施設としてオフィシャルな位置づけのものまでは求めていないという認識でよいか。
⇒ (委員) 病気の方、妊娠されている方、乳幼児連れの方などが安心して避難・生活できる設備を備えた施設という意味で、市の言う福祉避難施設ではない。人員の配置を求めているものではない。
- ・福祉避難施設的なものとするには、どんなものを置けばよいのか。江の島ではおむつ交換台の強い要望があって観光案内所に設置したら、とても好評だった。片瀬山市民の家にどんな設備が必要か一つずつ検討していったらどうか。
- ・授乳室について、事務室で兼用するなど配慮がない。
- ・(市) 避難施設には広さや備蓄品などの水準がある。片瀬山だけ他の施設と異なる高い水準の施設を作ることは公益的な視点からも課題がある。
- ・その課題をクリアしてほしい。他の水準が高くないので、せっかく新しい施設を作るのだから、少しでも良いものを作って欲しい。
- ・災害時に平常時と同じ対応を求めるのは難しい。多少の苦痛は甘受しなければならぬ。

- ・(市) CSW 等による相談受付は継続する予定か。
⇒ 継続する。
- ・太陽光発電は国策。黒三角はおかしい。東京都では新築住居は太陽光発電設備を義務付ける。また、太陽光発電は床暖房に使える。避難施設としたときにも有効に使える。ぜひ白三角にしてほしい。
- ・太陽光発電について防災安全部と調整したとあるが、環境部門とも調整してほしい。
- ・(市) 太陽光発電を諦めてはいない。調整を続ける。
- ・太陽光発電が使えるようになれば、暖房にかかる電気代の削減につながる上、避難所とするとき、弱者は床暖房で下から温めるのがよい。頑張してほしい。

- ・事務局から資料2の「Ⅱ 諸室・スペース」について記載のとおり説明された。(時間の都合により、「Ⅱ 諸室・スペース」は市からの説明のみで、これに関する意見等は次回へ先送りとなった。)

(※) その他

- ・複合化の検討に伴うサウンディング調査の実施について
公共施設の再整備については複合化を原則とする中で、企画政策課が市役所内部で複合相手となる施設を探したが見つからなかった。
次のステップとして民間活用の可能性を調査する必要がある。
例えば、2階建てとして2階部分を活用してもらう方法や、土地の一部を活用してもらうなど。
サウンディング調査を実施し、民間事業者との対話を通して様々な活用の可能性について意見交換する。

【質疑・意見】

- ・サウンディング調査の実施は決定か。
⇒ 決定している。
- ・民間が参入する場合、周辺住民の意見は聞き取るか。
⇒ 聞き取る。サウンディングはあくまで可能性の調査なので、業者からの提案をそのまま受け入れるのではなく、提案を基に市で検討する。委員の皆さんにも報告して進めていく。
- ・資料に「平屋を想定」とある。建ぺい率40%を踏まえると100坪の建物しか作れない。それでこれだけのものが入るか。今の片瀬山市民の家は100坪

はないかもしれないが、これでは何の進展もない。

⇒ スペースの課題もあるが、予算の面でもいただいた要望をすべて叶えることは現実的に困難。その中でも皆さまから創意工夫・アイデアをいただいて、お金をかけずにできるだけ良い施設にしていきたい。

・今後、こういう施設を作るときは複合施設にすると決まっているのか。

(渋谷会長) 公共施設再整備プランなどで決まっている。しかし地域住民との関わりがあるので難しいのではないかと。予定より3年も遅れているので、考慮してほしい。建てるのが優先。

⇒ すべての公共施設を建て替えるお金がないので、複合化して建物を減らすことで経費を抑えることが狙い。複合相手がいないので民間に貸し出すことで収支改善につなげたいという考え。

・もし誰からも提案がなかったらどうなるのか。

⇒ 次の手を考えることになる。

・いずれにしても自治会との調整が必要になるので大変。お勧めしない。

・近隣住民からの反対がでるように思う。

⇒ 提案をいただいても実現は困難かもしれないが、市の財政状況を改善するための取組としてサウンディング調査は避けられないので、ご理解いただきたい。

・100坪のスペースでは今検討している内容の多くが黒三角になってしまう。今の市民の家とほとんど変わらない。市民の家のための検討になってしまい複合施設の検討にならない。もう少し具体的なものを出してほしい。時間がない。検討を始めて5年経っている。提言書では200坪の施設ができる想定で、それであれば避難施設にできる可能性が十分あった。もう少し市側で例えば「平屋は決定」など示してほしい。そうすれば100坪となるので逆算して検討できる。もう少し具体的に規模などを明確にしてもらわないと避難所なども検討ができない。また、誰が運営するかも決まっていない。

・サウンディング調査がどういう計画で進められるか教えていただけるか。

⇒ ホームページ上で公募する。簡単に言うと、こういう土地にこういう施設を建てる計画をしているが、これらの土地・建物を活用したアイデアはありますか。というもの。

・過去に“予定地を売却して、今の市民の家の場所に建て替えるのも一つの方法”

との話があったが、個人的には反対ではない。大きいものできないのであれば、今の土地に鉄筋2階建てのしっかりしたものを作ってもらえば、多少は防災にも役立つし効率もいい。

・サウンディング調査が終わらないと検討が進まないのでは。

- ⇒ ご意見のとおり提案を受けてその方向に進むとした場合、建物の活用の仕方なども変わってくるので早い段階で実施したい。
- ・ 早急にやる必要がある。検討が進められない。

⇒ 調査は長期間をかけるものではない。実施の準備は進めているので、すぐに始められる状況。
 - ・ 平屋にするのかどうかだけでもできるだけ早く知りたい。

⇒ 今後の進め方として、この資料だけではイメージしにくいので、全体のご意見をいただいたあとに、配置図のようなものを作るのでそれを基に協議を進めていきたい。
 - ・ 平屋にするなら複合施設とせずに市民の家として使っていきたいということなら、その方向で考えていけば良いのではないか。

⇒ 片瀬山市民の家だけ大規模な施設とすることはできない。
 - ・ 市民の家だけにするのか、複合施設にするのかははっきりしてもらいたい。
 - ・ どういう施設にするか決まっていないうちで、あまり先走ってほしくない。

⇒ サウンディング調査をすることで、事業者の参入が決まるわけではない。
 - ・ 複合施設とした場合の運営方法も決まっていないうちで、もう少し具体的なものがないと検討ができないので、今回の会議でははっきり示してほしい。

⇒ 基本的には今回示した資料で○印としたものはやります、×印はダメですという考え。
 - ・ 平屋という部分やオープンスペースも十分に確保できないなど、とても残念。オープンスペースをメインに多くの人が集うことを想定していた。望んでいたものとイメージが大分違う。もう少し検討いただきたい。
 - ・ 自家発電を設置しないことは考えられない。他の施設にないからという理由だけでダメとするのではなく、市として前向きな姿勢を示して欲しい。

⇒ (市) 本日は、最小の経費で最大の効果をとという考え方や他の公共施設とのバランスなどをもとに市の考えを示させていただいた。今回、様々なご意見をいただいたので、次回もう少し具体的な形で反映できるよう持ち帰って整理する。

(3) 次回について

次回の会議について、3月15日(水)午後3時30分から片瀬市民センターで開催予定であることが報告された。

以 上